

## 令和5年度 北信地域高次脳機能障害研修会

### 高次脳機能障害の「基礎知識」と「就労の取組」 講演録 後半部分

(配信動画も御覧ください)

#### 「高次脳機能障害のある方に向けた当センターでの支援」

##### 長野障害者職業センター 風間良和主任障害者職業カウンセラー

地域障害者職業センターは47都道府県に設置されており、長野障害者職業センター（長野市）から長野県全域にサービスを提供しています。「職業相談・職業評価」を経た職業リハビリテーション計画の提案、定期的にセンターに通所することで働くための基礎体力の向上や労働習慣の確立、後遺症や困りごと等への対応方法の実践に取り組んでいただく「職業準備支援」、復職や再就職をされた際に、センター職員が定期的に会社に訪問し、会社内での相談や働き方についてのアドバイスや具体的な支援をご本人と会社に行きます（「ジョブコーチ支援」）。



すべての事業主に、従業員的一定割合（＝法定雇用率）以上の障害者を雇用することが義務付けられています。これを「障害者雇用率制度」と言います。加えて雇用率を満たせない場合は納付金を納めないといけないという制度（障害者雇用納付金制度）で障害者雇用の後押しをしています。

「障害者雇用」では障害者から合理的配慮を申し出て、事業主と十分に話し合いをしていくことがポイントとなる。そのためにも、自身の特性（障害の状況）を把握し、どのような配慮が必要かを説明できるようになることが大切です。

#### 「障害者就業・生活支援センターの役割」

##### ほくしん圏域障害者就業・生活支援センター 湯本精一主任就業支援ワーカー

障害者就業・生活支援センターの役割について紹介。機関名が長くて「・」があることから「ナカポツ」と呼ばれています。一般企業で働きたい方や、現在すでに働いている方で仕事や生活面でお困りの方（障害者手帳の有無は問いません）の就業面での支援や生活面での支援を就業支援ワーカーが行います。まずは何に対してお困り



りで、どうなっていきたいかを相談してもらい、ご本人と一緒に整理をして、ナカポツのできることを提案していきます。職業準備の段階から、就職活動の段階、就職後のフォローの段階まで「どういった苦手さを抱えていて、どういったフォローがあれば働けるか（働き続けられるか）」を見てサポートしていきます。

当事者の声（仕事への思いを当事者の方へインタビューしたものをご紹介します）

## シンポジウム・質疑

### ○高次脳機能障害を持つ当事者からの質問

障害年金も利用しているが、働きに出た方がいいのか悩んでいる。本当は家族で楽しみもあるような生活を送りたい。就労継続支援事業所の工賃は安いのでしょうか。

#### 湯本精一主任就業支援ワーカーより

就労継続支援A型事業所は雇用契約します。給料として最低賃金は保証されます。就労支援B型事業所では、福祉サービスの中で行う仕事（例えば請負や内職の仕事）で、工賃は事業所ごとに違います。賃金が少なくて困ることがあれば事業所の管理者さんやプランナー（相談支援専門員）に伝えていくことが重要。自分はこうしたいんだということを伝えていく。暮らしの支援チームを作っていく。

### ○高次脳機能障害と認知症はどう違うのか。長谷川式スケールの検査を評価するときに気を付けるべきことは

#### 石巻晃言語聴覚士より

進行していく（認知症）か、進行しない（高次脳機能障害）かという点は違います。脳に後天的に障害を受けて認知機能が落ちた状態が高次脳機能障害です。

長谷川式スケールでは全体の点数で何点以下だと認知機能に問題があるとされます。しかし評価の各項目に目的があります。見当識の能力があるかないか、言葉を覚えていられるか（記憶の能力を評価する）とか、注意力を評価するとか。各項目で評価することもできます。失点しているところの項目を更に検査していくことが考えられます。長谷川式スケール合計点が27点で問題ないとなっても、良く見ていく中でもし記憶の評価項目で大きく失点していると、そこには問題があるのではないかと掘り下げて検査や評価をしていくことができます。

### ○障害者雇用の合理的配慮を障害者側から配慮事項を求めていくことについての質問

現実には自発的に高次脳機能障害者が合理的配慮を求めていくことはとても難しいと思われるが。

#### 風間良和主任障害者職業カウンセラーより

障害者雇用という枠組みが必要になるよということはご本人にも理解をしてもらいたい「知られたくないです」というと支援が難しくなってしまいます。そこを踏まえた上で、「伝えたいけどどう伝えれば」ということはサポート機関、情報シートなどコミュニケーションツールの活用で支援していくことができます。

#### 田丸冬彦医師より

「障害者雇用」と一言で言ったときに障害の内容は個別さまさまなものがあり、そこに合わせたうまい支援が受けられるかどうかの仕事をしていく上で非常に重要になる。

### ○長野障害者職業センター、地域の就業・生活支援センター（ナカポツ） どんな方が来るの？

#### 風間良和主任障害者職業カウンセラーより

長野障害者職業センターは守備範囲は狭いが、仕事をやる中でどうしていくかという課題への取り組みの深さがあります。「仕事の中でどうするか」という方が来ています。

#### 湯本精一主任就業支援ワーカーより

障害者就業・生活支援センター（ナカポツ）は各圏域ごとにあります。就労も生活もナカポツの職員だけで支援が完結するわけではなくて、医療にも職業センターにも力を借りながら地域の実情の中で社会資源につながり、支援を組み立てることをやっています。

#### 田丸冬彦医師より

ナカポツセンターが県内10圏域に9か所設置ということで、支援コーディネーターの配置数から考えると、連携も大切だし、支援コーディネーターとして一人ひとりについてくれるというシステムづくりまで進むことが大事だと思います。

